



## ジャパンリンクセンター(JaLC)利用説明会

— DOIで国内の電子学術コンテンツへの永続アクセスを可能に！ —

ジャパンリンクセンター運営委員会副委員長

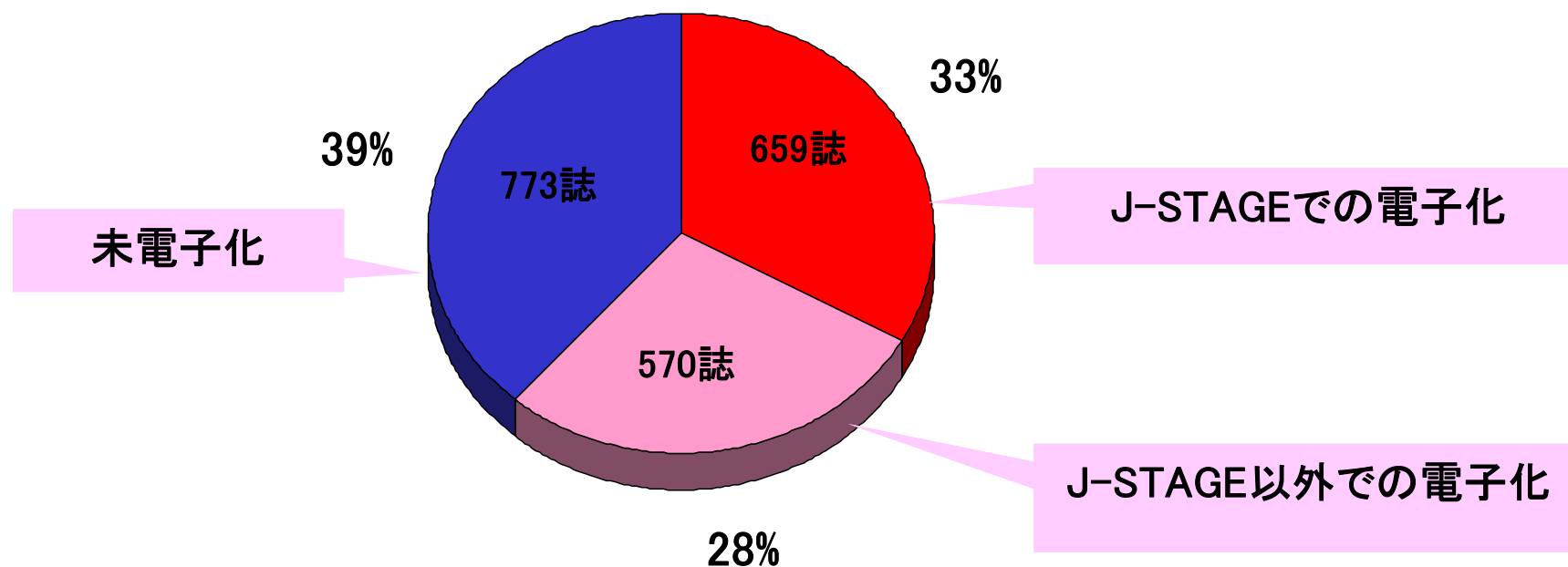
独立行政法人科学技術振興機構 知識基盤情報部 部長

大倉 克美

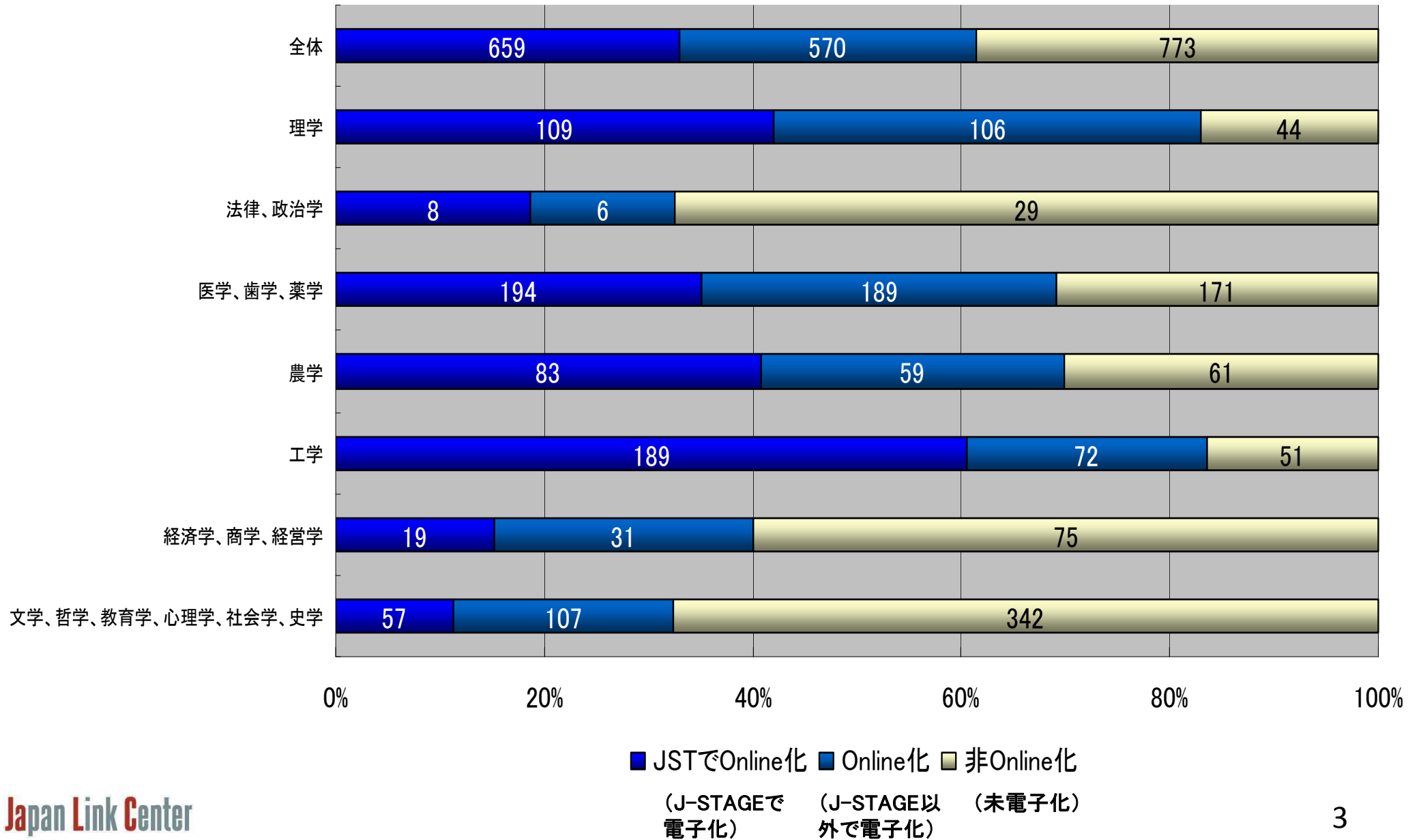
# 我が国の学会誌の電子化率は約6割

JST調査(2011)

- 調査学協会数 1,767学協会 (全分野)
- 調査資料数 2,002タイトル (1学協会あたり1.13タイトル)
- うち、電子化(インターネット発信)されている資料数 1,229タイトル



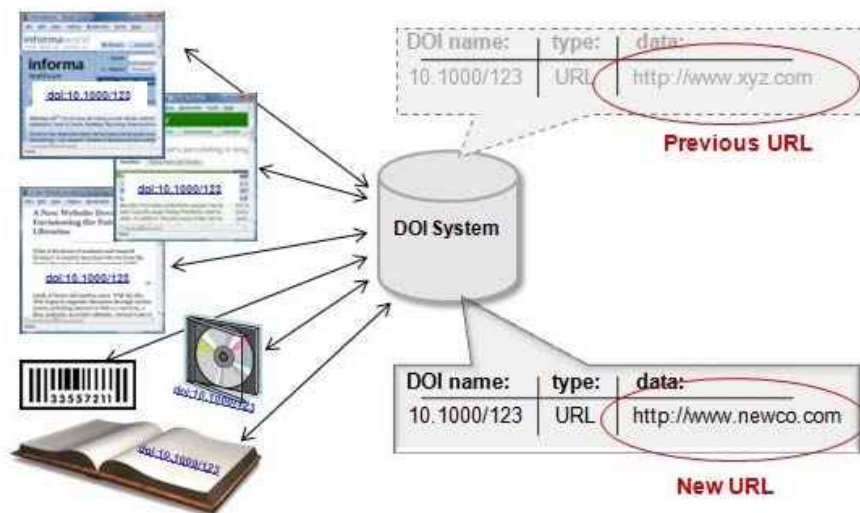
# 分野別に見てみると



# 電子化したコンテンツの恒久的な流通性確保の仕組みが重要

- ①コンテンツの同定、識別 → ユニークな識別子の付与
  - ②コンテンツの所在地の管理 → URLの変更管理
  - ③コンテンツの永久保存
  - ④ :
- } **JaLC**

**JaLC**は、我が国で発生する電子化されたコンテンツ(論文等)にユニークな識別子(**DOI**)を付与し、識別子とその所在地(**URL**)の管理を行うことで、コンテンツへの恒久的なアクセスを確保する。もってコンテンツを作成、管理、利用するすべての方々を(陰から)支援する。



※**DOI(=Digital Object Identifier)**はコンテンツの所在情報に付与する識別子の体系。  
※ISOに採用され、学術論文では世界的なデファクトスタンダード。  
※世界に9つのDOI登録機関があり、海外の代表的な機関がCrossRef。  
※JaLCは9番目に認定された登録機関。

# JaLCへのお誘い

- 今年5月に、科学技術振興機構(JST)、国立国会図書館(NDL)、国立情報学研究所(NII)、物質・材料研究機構(NIMS)の4機関がJaLCの共同運営機関となることを表明。
- 4機関でJaLC運営委員会を設立(事務局はJST)。

◆本委員会 (委員長:武田英明)

武田英明 国立情報学研究所 情報学プリンシプル研究系  
佐藤毅彦 国立国会図書館 電子情報部  
谷藤幹子 独立行政法人 物質・材料研究機構 科学情報室  
大倉克美 独立行政法人 科学技術振興機構 知識基盤情報部

◆システム・技術分科会(主査:大向一輝)

大向一輝 国立情報学研究所 情報学プリンシプル研究系  
小澤弘太 国立国会図書館 電子情報部 電子情報サービス課  
杉山智章 国立大学法人 静岡大学 学術情報部 図書館情報課  
高久雅生 独立行政法人 物質・材料研究機構 科学情報室  
林賢紀 農林水産省農林水産技術会議事務局 筑波事務所研究情報課  
真中孝行 国立大学法人 筑波大学 附属図書館 情報管理課  
久保田壮一 独立行政法人 科学技術振興機構 知識基盤情報部 リンクセンター担当  
松邑勝治 独立行政法人 科学技術振興機構 知識基盤情報部 知識インフラ担当

◆普及分科会(主査:加藤斉史)

上綱秀治 国立国会図書館 電子情報部 電子情報流通課  
森いづみ 国立情報学研究所 学術コンテンツ課  
阿部潤也 東京歯科大学 図書課  
加藤斉史 独立行政法人 科学技術振興機構 知識基盤情報部 リンクセンター担当  
日高真子 独立行政法人 科学技術振興機構 情報提供部 広報普及担当

- DOIを付与する学術コンテンツはまずは論文等(12月から)。次に研究データ等に拡張。
- これから国内関係者の方々に広く参加のお誘いをしたい。
- **会員、準会員として参加されることを期待している方々は、**  
**・学術出版者 ・アグリゲータ ・データベース提供者 ・学術リポジトリ管理者 等々の皆様。**

# 本日のプログラム

時間			登壇者
15:30～15:35	ご挨拶		大倉克美 (JaLC運営委員会 副委員長) (科学技術振興機構 部長)
15:35～16:05	講演1	DOIって何？	武田英明 (JaLC運営委員会 委員長) (国立情報学研究所 教授)
16:05～16:25	講演2	JaLCの概要	加藤斉史 (科学技術振興機構 副調査役)
16:25～16:55	講演3	JaLCの活用意義や期待 ①検索者側から  ②登録者側から	松田真美 (医学中央雑誌刊行会 部長)  阿部潤也 (東京歯科大学 係長)
16:55～17:00	まとめ		大倉克美 (JaLC運営委員会 副委員長) (科学技術振興機構 部長)